

| | |
|---|--|
| 名 称 | 令和4年度 第1回本部港（本部地区）環境監視委員会 |
| 日 時 | 2022年8月30日（金） 10：00～11：10 |
| 場 所 | Web会議 |
| 委 員 | ◎立原 一憲（琉球大学 教授） 香村 眞徳（琉球大学 名誉教授：欠席） 入部 綱清（琉球大学 助教） 中野 義勝（沖縄科学技術大学院大学 リサーチサポートリーダー） 宮城 忠 （本部町建設課） 松本 一也（本部町農林水産課） ※◎委員長 |
| 1. 委員会 | |
| <p>(1) 前回委員会における意見とその対応について</p> <p>立原 : 種数の計数の方法について、複数種を一種として数えるのはそれほど問題ではないが、成魚を1種としてカウントし、同じ種の可能性があるが、発育段階が違って同定できなかった種を別種として、2種としてカウントするのは問題があるので、検討する事。</p> <p>本部町 : 在来種の保全の件について、以前も意見が出ていたが、関係機関との調整で具体的にはどのような対応を考えているのか？</p> <p>事務局 : 前回の委員会でご助言いただいた、ターミナルでのパンフレット等の配布などを、今後関係機関と調整したいと考えおります。</p> <p>立原 : 以前からも懸案事項として挙がっており、同じような回答になっているが、クルーズ船が入港した後では間に合わないので、具体的に事前の対策をどう考えているのか早めに検討する事。</p> <p>(2) 事業の内容及び環境監視内容について</p> <p>立原 : 実際にクルーズ船が入港しているようですが、先ほどの対策は何もしていないのか？今後も対策を実施しない予定か？11月にも入港予定であるが、何もしないのか？</p> <p>事務局 : 先ほど説明しました2回目の入港（11月）については、現時点では予定が無くなりました。したがって、今年度はクルーズ船の入港予定はありません。</p> <p>入部 : 浚渫工事が今年度計画されていたようであるが、今年度はなぜ中止になったのか？次年度に実施するのか？そうであれば工事規模はどの程度か？</p> <p>事務局 : 20万トンクラスの大型船の入港に際し必要な水深を確保するために、堀残し部分について浚渫を行う予定でしたが、今年入港した日本のクルーズ船の大きさでは必要ないため、来年度以降に実施することとなりました。浚渫の範囲は小規模なものになる予定です。</p> <p>立原 : モズク養殖時期の水温の変化について、このグラフのデータはどこから入手したのか？</p> <p>事務局 : 本部の水族館で毎週1回の水温データです。</p> <p>立原 : 水温は1日の間でもかなり変動するので、毎週1回のデータをその時期の水温の代表とするのは問題がある。データロガー等の設置も検討したほうが良いのではないか？</p> <p>中野 : 調査内容の表のについて（）内の工事後1月の記述がおかしいので修正する事。</p> <p>中野 : 排水処理の対応について、一般論を説明していたが、運航会社は海洋汚染防止法等に則って対応していることから、同法に準拠していることを報告書に記載すれば良い。パシフィックビーナスの運航会社に問い合わせでマネジメントポリシーを調べてみる方法もある。</p> <p>中野 : 海水温については、瀬底のデータも利用したほうが良い。更に、今年度は</p> | |

サンゴの白化についても懸念されているため、1月の調査結果を判断するうえでも水温のデータを入手して検討したほうが良い。

中野 : 密猟等に関する対応について、「環境省」のやんばる事務所等にコンタクトを取られたほうが良い。

事務局 : 今後、検討します。

以上